



### タツノオトシゴの仲間 *Hippocampus sp.*

タツノオトシゴ類は、ユーモラスな体型をしているので、一般によく知られている。また、オスが卵を保護して孵化（ふか）させることでも有名である。

日本近海産のタツノオトシゴ *H. coronatus* の場合、メスは 5-9 個を産卵しては一休みを繰り返し、約 2 時間で計 40-50 個を産卵する。大型種のオオウミウマ *H. kelloggi* では産出稚魚が 600 尾に達することもある

サンゴ礁環境の周辺で生活している珍しい魚類（およそ魚には見えない）である。

日本の別名はウミウマ、カイマ、ウマノコ（日本各地）、ウマノカオ（富山）、リュウノコマ（神奈川県三崎）、ウマヒキ、リュウグウノコマ（和歌山）、ウマウオ、タツノコ（高知）などがある。英名でも "Seahorse"（シーホース：海の馬）と呼ばれる。すべてが熱帯から温帯の浅い海に生息する（一部の種は汽水域にも進入する）。食性は肉食性で、魚卵、小魚、甲殻類など小型の動物プランクトンやベントスを吸い込んで捕食する。動きは遅いが捕食は速く、餌生物に吻をゆっくりと接近させて瞬間的に吸い込んでしまう。干潟散策中に、アマモ場近くで、観察された。